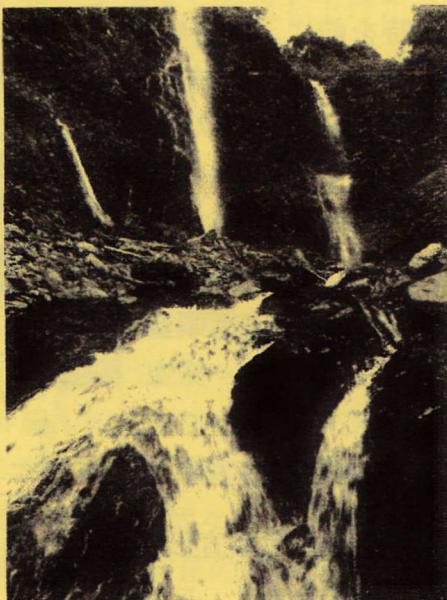


伊那谷スケッチ

.....

～自然と文化を巡るふるさと再発見～ 第四十三回

前島久美



今年はお米の生育が思わしくなく、手刈りした稲穂の束は軽やかだった。脱穀も一瞬で終わりそうだ。野菜の個配でお世話になっている千鶴さん（83）にぼやいたら、「春の苗作りからちゃんと農薬をしてみやましくやらんと、小さい田んぼでそんな事でははずかしいぞ」と一括された。悩まされた夏の田の草にも除草剤の散布を進められた。畑の面積を少なくして田んぼに立つ時間を増やしたら無農薬米も充実するだろうか。

【地元探訪】大日影沢をいく（2019年8月5日から2泊3日）

小渋川の支流小河内沢の更に支流に大日影沢という左岸の崩壊が進む沢がある。今日は、植物調査の終着地点落差40㍍の大日影を飛び越えて更に奥へと入る。メンバーはここ数年、年1回は一緒に沢登りに同行させてもらっている沢やさんのNさんとその弟子のSさんと3人で出発。

御所平から歩き慣れた小河内沢を進む。いつ

もの岩場でウォーミングアップ。イワタバコの星形の花が岩肌をキラキラさせている。小河内川上部は梅雨時の大雨の影響か川底はかなり変わっていた。心配していた箇所は以前より渡りやすくなっていて安心。叫びの壁も健在。水量が多めだったのでいつものコースタイムより少しゆっくり目に進むこと3時間。大日影沢との出会いに到着。ここから30分ほどで大日影の滝に着く。左奥には世紀末ルンゼ。左岸の崩壊は相変わらず進んでいるようだ。ここはまくし

かないので、Nさんがルート検索をかけている間、休憩。ルートが決まり、左岸の草付きを支点をとって登っていく。弟子のSさんはロープワークに慣れていてるので、私は安心して写真を撮ると植物チェックに夢中になってしまった。だからいつまでたっても覚えない。

大日影の滝も2段の滝だった。上部でると更に滝がつづく。今日の内にもう一越しておいた方が明日が楽だと言う事なのでさらにまいていく。草付きのもういルートだけれど布引きや雨乞い溯行で慣れっこ。

へばりつきながらいくと、キノコ発見。美味しいヤマドリタケモドキを収穫！Nさんの通過した後に私がキノコを見つけたものだからNさんは悔しがっていた。8月初旬のお花は夏らしさが漂う。

シモツケとシモツケソウのピンクとチダケサシの白がメインのフェミニンな構成。自身の経験の中では茶臼岳近くの稜線にしか確認していなかったタカネバラの自生地を2カ所発見できたことと

レンゲショウマの群落が滝の上部にあることを確認できたことは今回の大きな発見であり興奮だった。

他、クロクモソウ、ムカゴトラノウ、コウシンヤマハッカ、キヌタソウ、キンレイカ、コオオユリ、ビランジ、センジュガニピ、ハクサンフウロ、ミヤマウイキョウ、ミヤマオダマキ、タマガワホトトギス、タイツリオウギ、クガイソウ、シュロソウ、イブキジャコウソウ、コマガタケスグリ 等。

2日目

今日の一登目が今回の行程でいちばん沢登りらしい、登攀だった。

10ドル、7ドルの2段の滝をハーケンで支点をとって登る。しばらく進むと美しい双子の滝に会う。向かって左側は流れの底の岩肌の質によって流れのとても粒子が細かく繊細な印象をうける。ここは左岸をまいて上部でる。大日影沢は滝の宝庫で本流だけではなく、その支流

からいくつも流れが合流してくる谷で、名前を付けまくりだ。出発から2時間歩くと川の流れは伏流水となり、雪渓が厚く残る。涼やかな水の音が岩の間から聞こえてくる。ふと目線を上げると稜線近くの草地を大きな鹿が2頭、横断していった。稜線にでるとここからはおなじみの藪漕ぎ。眺めは開放的で荒川三山や兎岳などの深南部が見渡す事が出来るが足下には気をつけないと滑落だ。ハイマツの枝をスプリングのように使いながらリズミカルに進む。以外にあっけなく大日影山に到着。

ホシガラスの家族がツミに襲われているのを観察しながら稜線の小河内岳を過ぎると雨が振り出す。前小河内岳で少し休憩しているとNさんが私を見るなり『やばい、髪の毛がたってるぞ』と言って

樹林帯の中に駆け込むように促した。どうやら私だけ髪の毛が立っていて放電していたらしい。危うく、自然界に中和されるところだった。今日はひさびさの小屋泊まり。8年ぶりか。宗像さんが今年は小屋バイトをしていて、受付けのある小屋横の東屋で夕食の準備をしながら受付の仕事ぶりをチェック。随所に女性らしさがただようやさしい案内だった。

Nさんの弟子Sさんは4時のアラームが鳴ったらすぐに起きて

自炊場に向かった。・・・・起きてすぐ、あんなふうに動けない。

と思いながら、私はシュラフの中でごそごそしている。Sさんの俊敏さに感心して聞くとSさんは高校時代探検部の部長で男の子4人を引き連れて山行をこなしていたという。さすがだ。さぞ優秀な司令塔だったことだろう。

6時には三伏小屋を出発。ゆっくり下山。途中の開けたところからは南駒ヶ岳や北アルプスも見えた。

それから、夕立神で自然観察すること2時間。お目当ての大鹿村の住人には出会えなかつたけれど今回の山行の山ひだを確認しながらの有意義な時間だった。